

映画表現としてのライブ・パフォーマンス ～プロジェクト「音から作る映画」と 連続講座「映画以内、映画以後、映画辺境」を振り返る～

アーツカウンシル東京では平成25(2013)年度より長期間の活動に対して最長3年間助成するプログラム「東京芸術文化創造発信助成【長期助成プログラム】」を実施しています。この度、助成対象活動報告会の第10回として、平成27(2015)年度より3年間助成した、映画監督の七里圭さんが主宰するチャーム・ポイントの活動をご紹介します。

「音から作る映画」プロジェクトは、単なる映画制作方法の実験に留まるものではなく、映像技術のデジタル化によって、映画と他ジャンルとの境界線が揺らぎ始めていることにいち早く着目し、それを実践的に考察する試みでした。

身体表現や舞台芸術の映像アーカイブ、コロナ禍でのライブ動画配信など、これまでになく映像が表現活動のあらゆる場面で必要とされる現在、さまざまなジャンルの活動のヒントとなり、参照され得る報告会となるはずです。

◆スピーカー（報告者）

七里 圭（チャーム・ポイント代表、映画監督）

高橋 哲也（チャーム・ポイント副代表、ムービーカメラマン）

棚沢 努（チャーム・ポイント会計、映像ディレクター／プロデューサー）

【採択事業の概要】

映画制作の通常プロセスを逆転し、音（サウンド・トラック）から作り始めることで、映画という表現形式に組み込まれた他ジャンルの諸要素をアンパッキング。それらを映画と比較・検証しながら、再構築することで映画制作を行った。よって、電子音楽やボイス・パフォーマンス、ダンスや演劇、美術など様々なジャンルのアーティストとのコラボレーションが、ワーク・イン・プログレスとして発表された。その活動は、ライブ・パフォーマンスと映画制作の往還となり、3年の助成期間に、4本の新作上演作品および5本の劇場公開映画（長編）、2本の短編映像作品に結実し、海外のフェスティバル参加も実現した。また並行して、関連するテーマについての連続講座「映画以内、映画以後、映画辺境」も多彩な論客を招いて11回催し、その議論を制作にフィード・バックするとともに、最終年度には総勢8名のゲスト・パネラーが登壇してのシンポジウムを二夜にわたり開いた。



チャーム・ポイント

映画監督の七里圭を中心に、フリーで活躍する映像スタッフ、音楽家、美術家、写真家、詩人等が、既存の表現ジャンルに留まらない作品を制作、発表するために緩やかに連帯し結成。映画表現を拡張する創作活動を続ける一方で、そうした志向を共有できる表現者や研究者、観客が連携するための場づくりにも力を注いでいる。これまで制作した映画に『ホッテントットエブロン-スケッチ』（2006）、『眠り姫』（2007）、『DUBHOUSE』（2012）、連作『To the light』（2014～）など。

日 時：2020（令和2）年9月25日（金）19:00～21:00

場 所：アーツカウンシル東京（東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス8階）

定 員：30名（入場無料/事前申込制）*応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

申込方法：氏名、所属・職業、連絡可能な電話番号、E-mail、手話通訳の要否を明記の上、
forum-grant@artscouncil-tokyo.jpまでお申し込みください。

申込締切：2020年9月17日（木）正午まで

主 催：公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

お問合せ：アーツカウンシル東京企画室企画助成課 Tel: 03-6256-8431（10:00～18:00 土日祝日を除く）

*内容は変更になることがあります。 *ご記入いただきました個人情報は厳重に管理し、本会の連絡以外に使用いたしません。
*当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じた上で実施いたします。ご来場にあたってはマスク着用などのご協力をお願い申し上げます。なお、37.5℃以上の発熱がある方や、体調不良が認められる方等は、当日ご入場をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。